



人権に向き合うための 6つの素材

エピソード

ドメスティックバイオレンス 高齢者 障害者 報道被害 HIV感染者等 同和問題

～街に、暮らしに、あなたのとなりに～

※字幕入り版もあります

上映時間 27分

制作年度 平成15年度

ビデオ版 63,000円(本体60,000円)
C#6587

東京都では、「東京都人権施策推進指針(平成12年策定)」で、東京におけるさまざまな人権問題の状況を示しています。このビデオでは、身近な人権問題を考えていく素材として、指針の中から6つの課題を取り上げました。

○ 日常を問い合わせる

私たちが何気なく身を置いている「日常」。しかし、ふだん当たり前としてきた言動や習慣、社会システムなどの中にこそ人権問題の芽が潜んではいないでしょうか?

○ 差別や人権侵害は誰にでも起きること

人権問題は自分の周辺でいつも起こりうること。そして、誰もが人権をめぐり、どんな立場にも立つ可能性があることを考えます。



Contents

第一章 男と女…ドメスティックバイオレンス

[ミニドラマ]

家族の団欒。妻がワイドショーで見た「美人OL失踪事件」という表現に違和感を感じると言います。夫はその意味がわかりません。娘が言います。「美人妻、美人女子大生、美人おかみ、ホントに美人が好きよね」。美人は好きだが女性の上司はやりにくく感じる。やはり世の中は男性中心なのでしょうか?

[ドキュメント&インタビュー=ドメスティックバイオレンス(DV)]

都内の一角落。ここでは、DVの加害男性に対する暴力をやめるための教育プログラムが行われています。このプログラムを主催する民間団体のファシリテーター・山口のり子さんは、DVの実状や女性の人権との関わりを語ります。また、実際にこのプログラムを受講して「気づき」を得たDV加害者男性たちも、自らの体験と現在の心境を語ります。被害者である妻たちは夫のDV行動によって傷ついたことや現在の思いを手紙やメールで伝えます。それぞれの思いを通して暴力の根底にあるものを考えます。

第二章 老いと尊厳…高齢者

[ミニドラマ]

妻が、夫の父に電話しています。高齢の父は、最近パソコンに熱中し、自費でパソコンを買いつぶて教室までひらくと言うのです。電話を代った夫の「いい年して、年寄りの出る幕ではない」との言葉に、父は怒って電話を切ってしまいます。

[ドキュメント&インタビュー=高齢者のいる家庭]

日本大学教授の田中荘司さんに、最近の高齢者の置かれている状況について解説してもらしながら、実際に要介護高齢者を抱えている家庭の話を聞きます。その家庭では、祖母が病気で歩行が困難になり、介護の問題が現実となりました。介護する側と介護される側、それぞれの気持ちを取り上げて、高齢者介護の現実から高齢者の尊厳について考えていきます。

第三章 共生…障害者

[ミニドラマ]

妻が回観版を読んでいます。近くに知的障害者更生施設ができるとのこと。

プロデューサー … 中鉢裕幸
若杉 和

脚本・監督 … 前田和男

人権に向き合うための

エピソード 6つの素材

～街に、暮らしに、あなたのとなりに～

○ 人権を生活の土台にする

何か問題があった時に初めてでてくる「人権」ではなく、日頃から行動していく時の基準として人権を意識していくことが大切です。このビデオでは、誰の生活中にも人権があることを考えていただくことを目指しました。

娘はそれを聞き、障害者に対する不安を訴えます。それは誤解だと妻は批判しますが、「でも、こういう施設は住宅地じゃなく郊外に作るのがいいよね」と発言。本当にそうなのでしょうか?

[ドキュメント&インタビュー=日の出太陽の家]

『日の出太陽の家』は、東京都日の出町にある知的障害者更生施設です。建設が計画された当時、地域住民から強硬な建設反対の声が上がりました。施設側と住民との対立と葛藤は7年にも及びました。当時、建設推進派の障害児の親の会会員として現地にやってきた成田豊太さん、建設反対派のリーダーだった古山喜一郎さん、そして、地元のボランティアグループ代表の久保田武男さんが当時の思いを語ります。そして、現在の『日の出太陽の家』が地域に受け入れられている状況を伝え、共生とは何かを考えます。

第四章 正しく知る…報道被害、HIV感染者等、同和問題

[ミニドラマ]

娘が、松本サリン事件を扱った映画「日本の黒い夏 冤罪」を見ています。妻と娘は、冤罪とマスコミについて語り合います。

[インタビュー=正しく知ることの大切さ]

松本サリン事件の被害者でありながら犯人扱いされた河野義行さんに、当時の状況を聞きます。

マスコミによるエイズ報道やHIVへの偏見について、長年啓発活動を続けてきた『HIVと人権・情報センター』の五島真理為さんにインタビューします。

作家の角岡伸彦さんは、自らの体験から同和問題について「知ることの大切さ」を訴えます。

それぞれの話から情報社会における差別や偏見、正しく知ること(メディアリテラシー)の重要性を考えていきます。

エピローグ

人権ってなんだろう…。

今回出演した方々にそれぞれの体験から「人権とはなにか」について話していただきます。

このビデオを見たあなたは、どんな言葉で人権を語りますか?

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区国泰寺町1-5-31 ☎730-0042 ☎082-249-3930
高松出張所 高松市本町11-7 ☎760-0032 ☎087-851-3766
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 ☎810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……



古紙配合率100%再生紙を使用しています
白色度80%再生紙を使用しています
石油系溶剤を含まないインキを使用しています